

祝 辞

国立情報学研究所 学術基盤推進部
次長 竹谷 喜美江

このたびは、第 83 回私立大学図書館協会 総会・研究大会のご開催、まことにおめでとうございます。開催にあたりまして、ご挨拶を申し上げますとともに、弊所の事業について簡単にご紹介させていただければと思います。

新型コロナウイルス COVID-19 の勢いがなかなか収束しない中、私立大学図書館協会の加盟館のみなさまにおかれては、感染の拡大防止とその中での教育や研究の継続、またそれらを支援する図書館の使命を果たすために大変なご苦勞をされていることと存じます。そしてこのような状況のなかで、総会・研究大会開催を企画された方々のご尽力、私立大学図書館のみなさまの結束力に深い敬意を表します。

弊所も、コロナ禍の中で何ができるかという想いを出発点に、一昨年 3 月の末から、オンラインによる『4 月からの大学等遠隔授業に関する取組状況共有サイバーシンポジウム』を開催いたしました。現在は名前を『大学等におけるオンライン教育とデジタル変革に関するサイバーシンポジウム「教育機関 DX シンポ」』に変えておりますが、国内にとどまらず海外の大学関係者や、文部科学省をはじめ国の関連機関にも協力いただき、オンライン教育や VR への取組、教育 DX に関する情報をできる限り多くの大学間で共有する取組をしております。当初は毎週、現在は 3 週間に 1 度の頻度で開催しており、令和 4 年 9 月 9 日で第 55 回目を数えます。参加者は 2,000 名を超えることもあり、これまでの講演回数は延べ約 450 本、参加者数は延べ約 5 万 7 千人、アーカイブ映像視聴回数は約 32 万 5 千回と、大変多くの反響をいただいています。今後も定期的に開催いたしますので、ご興味のある方はどうぞご覧ください。

[\(https://www.nii.ac.jp/event/other/decs/\)](https://www.nii.ac.jp/event/other/decs/)

このシンポジウムの反響に象徴されるように、コロナ禍を契機に、教育や研究のデジタル・トランスフォーメーションが急速に進んでいます。

私どもは今後も大学共同利用機関として、臨機応変にできる限りの工夫や努力を続けていく所存でございますので、みなさまのご理解とご協力をいただければ幸いです。

さて、弊所は、国立情報学研究所、National Institute of Informatics 通称「NII」と呼ばれ、日本で唯一の情報学に関する総合的な研究所です。それと同時に、大学共同利用機関として、大学のみなさまと連携しながら、学術情報基盤を構築・運営する組織でもあります。

具体的には、SINET をはじめとする学術情報ネットワーク事業、そして図書や雑誌、学術論文や研究データ等、図書館のみなさまになじみの深い学術コンテンツ事業、この 2 つを中心に事業を展開しております。

近年は、教育や研究のデジタル・トランスフォーメーションを進め、データ駆動型研究による成果創出ならびにオープンサイエンスの推進に貢献することを目指した活動をしております。

2022 年 4 月 1 日より、これまで運用してきた超高速な「ネットワーク基盤」と、研究データの管理・公開・検索を可能とする「研究データ基盤」とともに高度化し、融合した「学術研究プラットフォーム」の運用を開始しました。(図 1 参照)

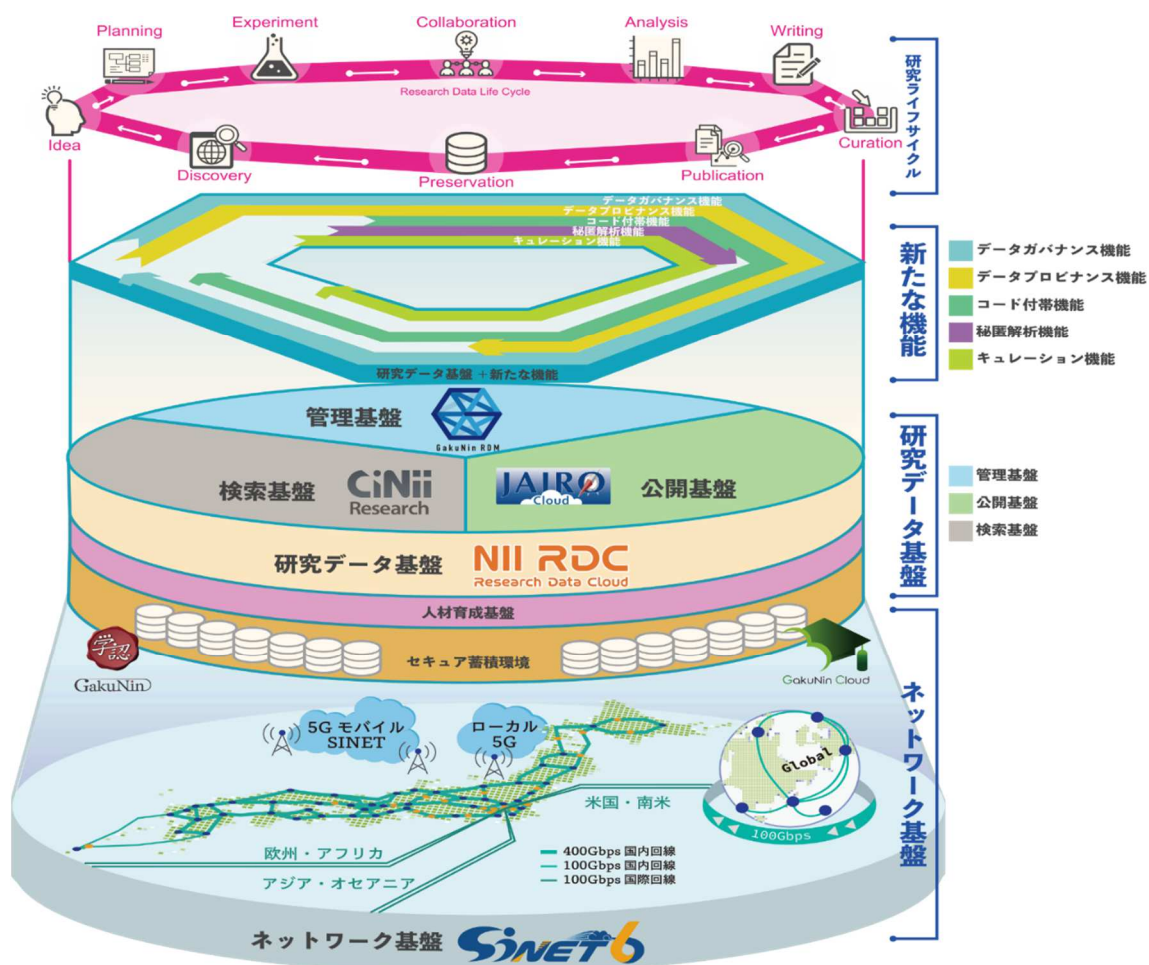


図1 オープンサイエンス推進のためのNIIの学術研究プラットフォーム

上の図の一番下にあるのが、ネットワーク基盤「SINET6」です。

学術ネットワーク事業であるSINETは2022年4月1日にSINET6として新しいバージョンの運用を開始しました。SINET6は、①400Gbpsの全国展開と接続点の拡大、②5Gと400Gbpsの融合、③エッジ/NFV等によるサービス拡大、④国際回線の増強、等を実現した、セキュアで高速高性能なネットワーク基盤です。

ネットワーク基盤の上にあるのが研究データ基盤「NII Research Data Cloud」(NII RDC)です。このNII RDCを構成する基本的な基盤として、管理基盤「GakuNin RDM」、公開基盤「JAIRO Cloud (WEK03)」、検索基盤「CiNii Research」の3つの基盤があります。これらは、2020年度末から段階的に運用を開始しております。弊所では、第4期中期目標中期計画の期間において、この研究データ基盤を高度化し、基礎的な機能の提供からデータ駆動型研究の実践に不可欠な基盤へと各機能を高度化拡充していく予定です。公開基盤である、「JAIRO Cloud (WEK03)」移行に関しましては、想定外の不具合により、やむを得ずスケジュールを変更しております。JAIRO Cloudをお使いいただいている貴協会の加盟館のみなさまに対しまして

は、ここでお詫びを申し上げるとともに、引き続き、よろしくご協力をお願いいたします。

さて、オープンサイエンスの推進には、各大学での研究データ管理に関連する人材育成が大きな課題であります。NII ではこの課題に対応すべく、2021 年 6 月から、学習プラットフォーム「学認 LMS」の運用を開始しました。現在、この学認 LMS には、現場の職員の方、そして研究者の方がたにむけて、情報倫理と研究データ管理を学ぶための教材が搭載されています。詳細については以下の頁をご覧ください。是非ご活用いただければ幸いです。

<学認 LMS の運用開始について>

<https://rcos.nii.ac.jp/news/2021/06/2021618-0/>

今後、我が国においてオープンサイエンスを推進していくにあたっては、大学図書館こそが中心的な役割を果たしていくことになるのではないかと考えております。引き続きご協力のほど、よろしくお願いいたします。

最後に、大学図書館のみなさまにご利用いただいている、目録所在情報の新しい共同利用システムについて触れさせていただきます。(図 2 参照)

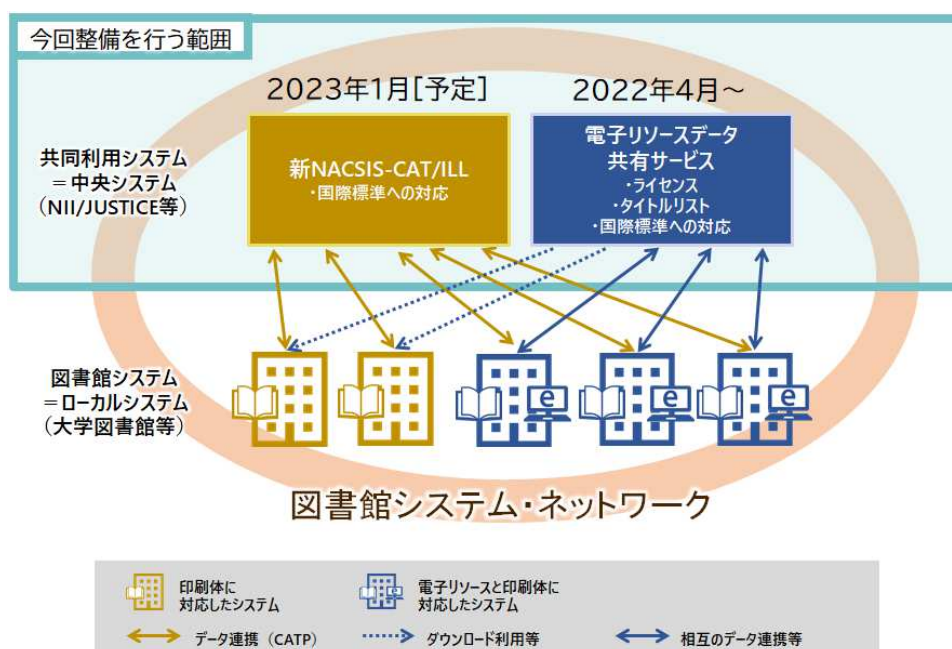


図 2 目録所在情報の新しい共同利用システムの概要

新共同利用システムは、図 2 のとおり、新 NACSIS-CAT/ILL と電子リソースデータ共有サービスの二つのサービスを提供します。電子リソースデータ共有サービスは電子ジャーナルなどの電子資料のタイトルリストと、出版社とのライセンス情報（JUSTICE 提供分については会員館限定公開）を提供するシステムで、2022 年 4 月から提供を開始いたしました。新 NACSIS-CAT/ILL システムは 2023 年度に稼働開始の予定です。「これからの学術情報システム構築検討委員会」による「これからの学術情報システムの在り方について」（2019）を指針として、メ

タデータの高度化、国際標準への準拠を実現いたします。なお、接続方法やこれまで蓄積されたデータや機能については、変更せず、そのまま利用可能であることを前提としております。

NII のサービスは、まさに今新たな節目を迎えています。これらの活動を展開していくには、大学図書館のみなさまのご協力が不可欠です。今後も引き続きご指導・ご鞭撻を何卒よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、総会・研究大会のご成功、私立大学図書館協会のますますのご発展、そして会員館のみなさま方のご健勝を祈念いたしまして、私からのご挨拶とさせていただきます。